

日本と中国の女子大学生の意識に関する研究

— 主に結婚観、職業観、性役割観について —

宋 曉威*・綱島 誠**・斉藤ふくみ***

(2010年9月15日受理)

A Study in the Awareness of Female Students between Japan and China

— Concerned with a View of Marriage, Career and Gender —

Gyoui SOU, Makoto TSUNASHIMA and Fukumi SAITO

キーワード: 結婚観, 職業観, 性役割観

本研究は、日本と中国の女子大学生を対象に、結婚観、職業観、性役割観について質問紙調査を行い、意識の違いを比較し、その背景について考察を加えた。また、留学生を対象に日本に留学後の結婚観、職業観、性役割観について記述式で回答を求めた。調査の結果、日本人は、結婚に対して「精神的な安らぎ」「子育ての生きがい」を求めている一方で、結婚による「家事育児の負担」に不利を感じていた。中国人は、結婚に「高めあう仲間を得る」ことを期待し、女性は結婚と職業を両立することを望んでいた。留学生は、結婚に対して「精神的な安らぎ」を求めると同時に、結婚後働くことは「自分の能力の発揮」であると捉えていた。これらの両国の学生の意識の違いや留学生の意識を参考として、今後の女性の家庭での役割やキャリア教育に活かしていきたい。

I はじめに

日本では、高度経済成長、バブル景気や平成不況などという社会変動、グローバル化による新しい価値志向の形成や、特に女性における高学歴化、社会への参加など様々な要因が絡み合っ、女性の存在を重視すべき時代になってきていると思われる¹⁾。特に若い世代に多様な価値観が生み出されている。世間では晩婚化もしくは未婚化、少子化、高齢化など、家族をめぐる様々な変化が見られる。その一つの要因として、女性の地位向上、女子の高学歴化と就労の長期化など、女性をめ

*茨城大学大学院教育学研究科

**前茨城大学教育学部教育保健教室

***茨城大学教育学部教育保健教室

ぐる変化がある。中国でも、80年代以来の改革開放の深化に従って、女性の法的地位、経済的地位、政治的地位、教育的地位、家庭的地位などが少しずつ上がってきている²⁾。女性も普通に大学に進学して高学歴で働いている。いわゆる「女性は天の半分を支える」という重大な役割を果たしている。そして、近年日本に留学した女性も増える一方である。女性が留学することは、ある程度の経済基礎と前向きな姿勢がなければできないのではないだろうか。日本に来てから、日本人、そして文化・習慣と出会って、「郷に入っては郷に従え」という諺のように、いろいろな影響を受けて、意識・思想が多少日本人と似て来ているのではないだろうかと思われる。

本研究では、日本の女子大学生、中国の女子大学生を対象に、結婚、職業、家庭での役割を中心に、意識の違いを比較し、その背景について考える。同時に、留学生の意識変化についても調べた。

II 対象および方法

調査対象としたのは、日本のA大学女子78名、中国のB大学女子97名、日本のC大学の中国女子留学生40名であった。調査方法は質問紙調査法を用いて2008年11月下旬から12月上旬にかけて調査を行った。日本人の場合、講義時間内に配布したり、研究室を訪ねて配布しその場で回収した。中国人の場合、大学教員に依頼し配布・回収した。留学生の場合、留学生が集う時間を利用して配布し回収した。調査結果はSPSSを用いて、集計した。各群の比較には χ^2 検定を用い、 $p<0.05$ をもって有意差ありとした。

III 結果および考察

1. 結婚観について

1) 結婚生活の利点

結婚生活の利点³⁾について尋ねたところ、図1のような結果が得られた。最も多い回答は「精神的な安らぎ」であり、日本人と留学生が約75%を占め、中国人は50%強であった。次いで「高めあう仲間を得る」が続いたが、日本人よりも中国人と留学生の方が高かった。「子どもを生き育てることは、生きがいにつながる」についてみると、日本人が中国人に比べて突出して多かった。留学生は日本人に比べると半分以下だが、中国人と比べると2倍の高さであった。日本人が結婚によって「子どもがほしい」という欲求を満たされることが考えられ、いかにも子どものことを重視していることがわかる。一方中国人は、昔から結婚による「子孫を残す」という役割を重視してきた。結婚して子どもを生き育てることが当然だと考える人が多く、「生きがいにつながる」まで考えていないように思われる。日本人が結婚による「子どもを生き育てることは、生きがいにつながる」が高割合であるのに反して、なぜ少子化が深刻化しているのか。確かに日本人が子どものために、女性が仕事までやめて、一生懸命子どもを育てる家庭が多い。しかし、結婚して必ず子どもを生むわけではない。子どもがほしくない家庭やほしくても授からない場合は、一人も生まないため、結局子どもが少なくなっていると考えられる。今までの日本の女性は子どもを生んだら、子育てに専念す

る人が多いため、このような結果になったのではないと思われる。

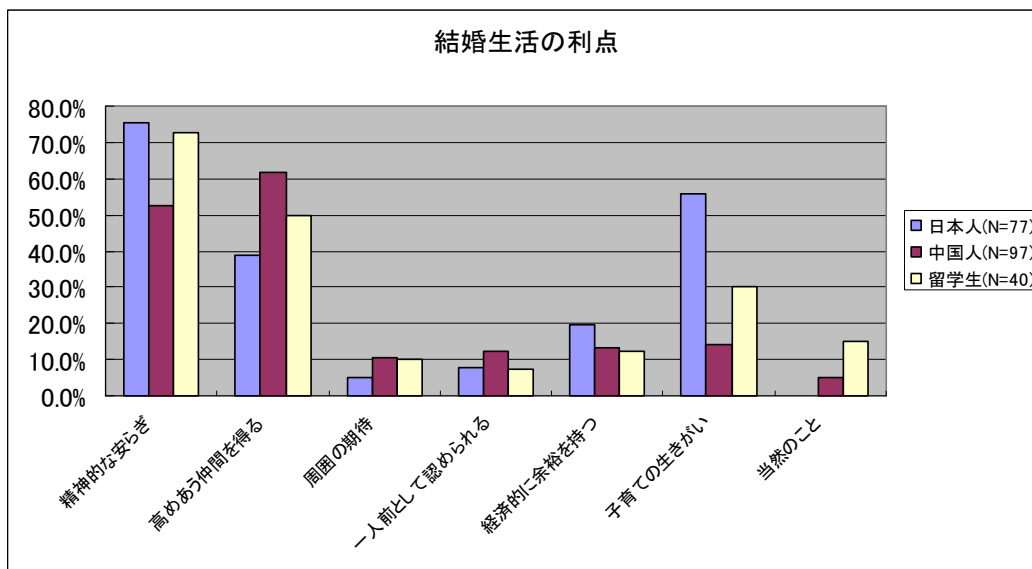


図1 結婚生活の利点 (複数回答)

2) 結婚生活の不利

結婚生活の不利について尋ねた結果は、図2のようであった。「家事育児の負担が多くなる」を選んだ日本人と留学生の割合がほぼ同じだった。中国人の場合にははるかに低い値を示し、有意差が見られた。日本人が「子どもを生み育てることは、生きがいにつながる」という結婚生活の利点として求めている一方で、結婚して「家事育児の負担が多くなる」ことも感じていることがわかる。日本では育児環境が整っていないのではないかとと思われる。それに対して、中国では男性が家事育児に積極的に参加している。そして、周りの親戚も助け合って家事育児を行っているからこそ、中国人が結婚による「家事育児の負担が多くなる」と感じていないのではないかとと思われる。

中国人が「付き合いが増えて、煩わしい」と「異性との交際が自由にできない」を選んだ人がやや多い。結婚によって、親族の付き合いが増える。中国では家族団らんが認められ、親族の付き合いがうまくいかないと、家庭を悩ませる時もある。そして、中国では結婚している女性が夫に対する貞操を守るべきだという思想が根強く固まって、異性との交際を慎んでいるから、結婚して「異性との交際が自由にできない」と感じたのではないかと考えられる。

日本では核家族が進んで、結婚したら自分の家庭を中心に動いている。一方中国では、親と一緒に住んだり、親戚や近所の人と付き合いったりして、家事育児に関して、助け合うこともよく見られる。そして、中国の家庭では夫が育児家事の参加も積極的に行っているからこそ、女性が結婚生活中の家事育児の負担を重く感じていないのではないかと考えられる。留学生は日本で生活して、日本の女性の生き方を見て、家事育児の大変さを身近に感じているのではないかとと思われる。

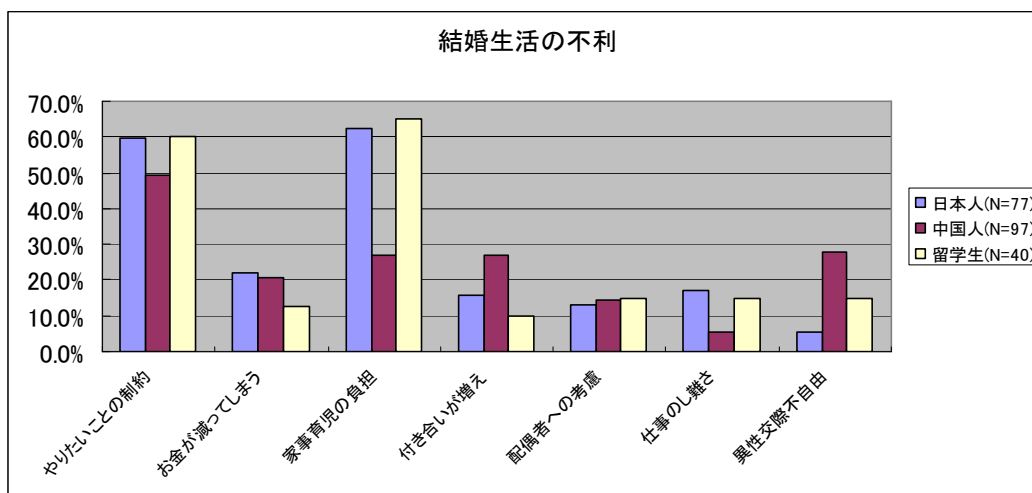


図2 結婚生活の不利 (複数回答)

3) 晩婚化の理由についての考え方

女性の晩婚化の理由に対する回答を図3に示した。「女性の経済力向上」が日本人と留学生に高く、「独身のほうが自由」は留学生に高かった。中国では80年代から「一人子政策」を実施すると同時に「晩婚、晩育」というスローガンも掲げられたが、晩婚化は日本ほど進んでいないので、晩婚化という意識はまだ低いと思われる。

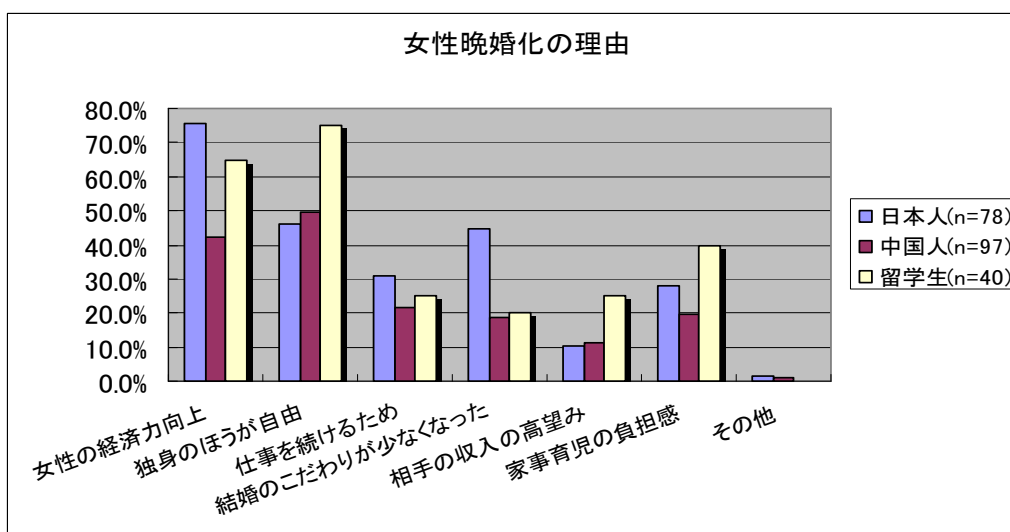


図3 女性の晩婚化の理由 (複数回答)

4) 結婚したとしたら、理想的な家庭を築くことに対する考え方

結婚後、理想的な家庭を築くことに対する考え方⁴⁾は、伝統的な「夫唱婦随」と「役割分担」型の家庭を望む者は少なかった。項目別に見ると、日本人と留学生が「夫婦自立」型を望んでいる。「家庭内協力」型では留学生の割合が特に少なく、中国人との間に有意差が見られた ($p < 0.05$)。中国人は「夫婦自立」型と「家庭内協力」型を同じ程度に望んでいた (図4)。今中国の家庭を見ると、ほとんど「家族内協力」型だと思われる。伝統的な「夫唱婦随」型と「役割分担」型は現代の

女性に相応しくないといえる。

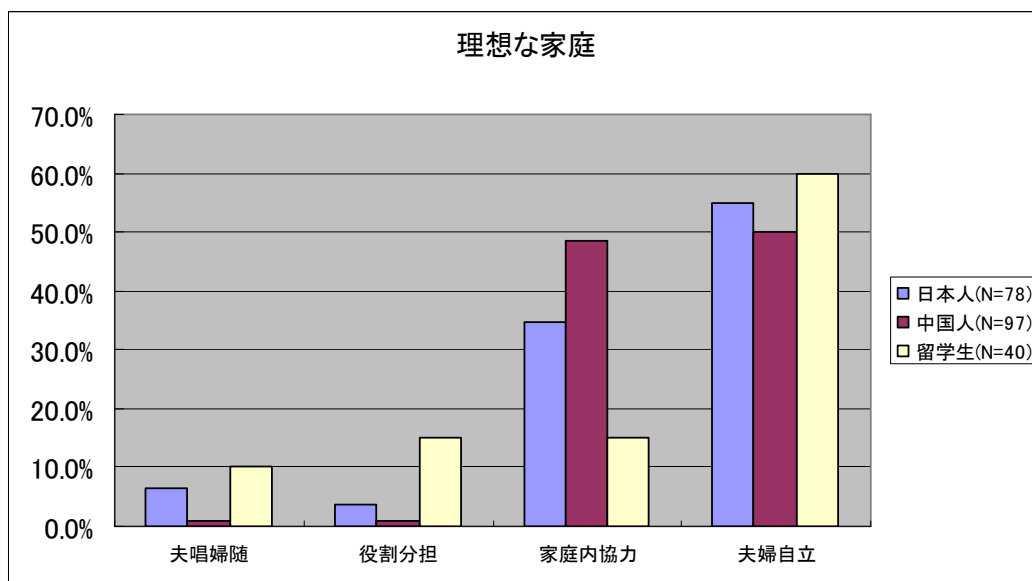


図4 将来どんな家庭を築きたい

2. 職業観について

1) 結婚しても働く理由

結婚しても働くとして、その理由を尋ねたところ、図5のように「家族と自分の生活維持のため」を選んだ日本人の割合が高く、中国人との間に有意差が見られなかった。「経済の自立のため」では中国人と留学生の割合がほぼ同じだったが、日本人の場合は有意に低い値を示した ($p<0.05$)。「自分の能力を発揮するため」を選んだ留学生の割合が高く、日本人と中国人間の有意差が見られなかった。「自分の生活充実のため」を選んだ中国人と留学生の割合がほぼ同じだったが、日本人と中国人間に有意差が見られなかった。

2) 職業に求める条件

職業に求める条件⁵⁾については、図6のように、差が見られたのは中国人が「高収入、高待遇」を日本人より重視している。一方日本人が「仕事が安定し、保障がある」を重視していることが分かった。中国では低賃金制度が続き、「保障」より「収入」を先に考えているのではないかとと思われる。もう一つ目立つのは、「国家の求めに応じるため」を選んだ日本人が一人もいないのに対して、中国人が3割弱を占めた。社会主義では国家の榮譽が一番だという考え方があって、国家の求めに応じるため、自分のことを放棄すべきだという社会的責任感が強いことによると思われる。

3) 結婚した女性が職業を持ち続けることに対する考え方⁶⁾

図7のように、中国人が日本人より「仕事と家庭の両立」をすべきだと考える人が多かった。日本人の中では「育児優先」を考えている人が二割を占めた。今の若い女性が仕事と育児を両立したい意識が強くなっている傾向が見られる。日本人は「その他」で、家庭の状況や夫の考え方などに左右されることも挙げていた。

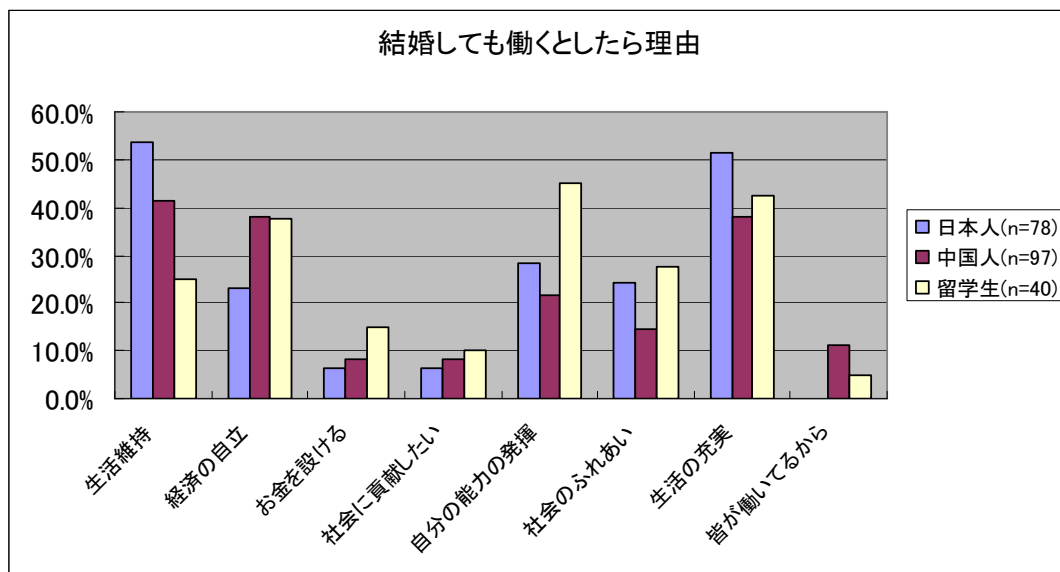


図5 結婚後も働く理由(複数回答)

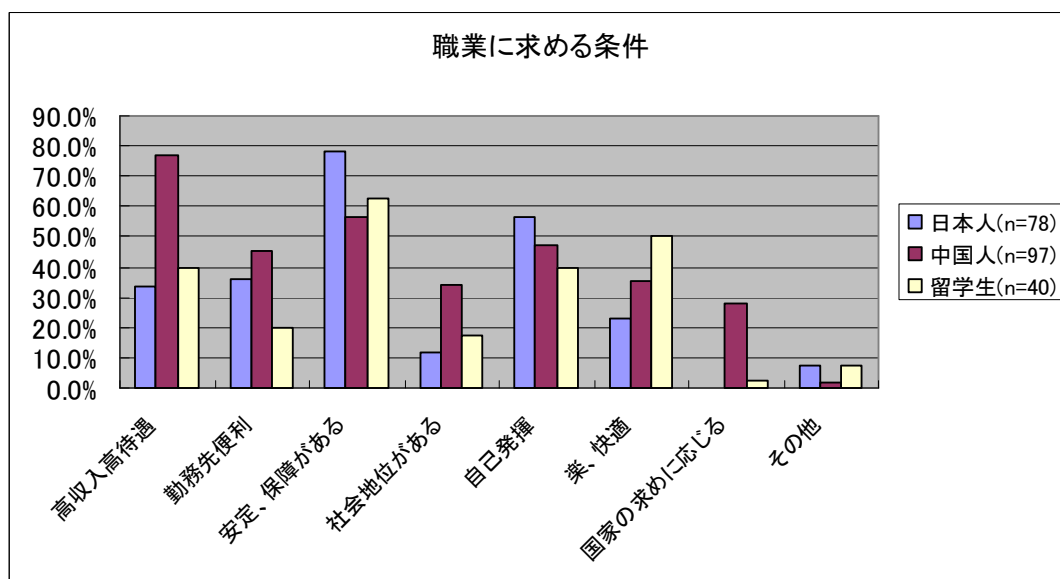


図6 職業に求める条件 (複数回答)

3. 家庭での役割分担について

1) 「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性役割分業に対する考え方

図8のように中国人が「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性役割分業を否定する人が多かった。現状でも働いている女性が多い傾向が見られる。一方日本人が「どちらにもいえない」と曖昧に考えている人が多く、伝統的な性役割分業を簡単に否定することができなかった。日本人はまだ伝統的な性役割分業の観念から完全脱出していないといえる。

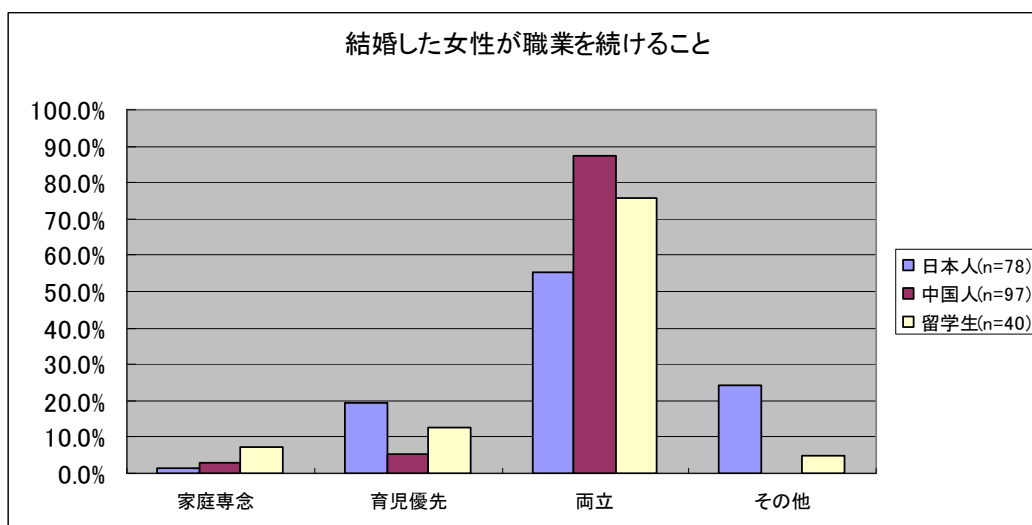


図7 結婚した女性が職業を続けること

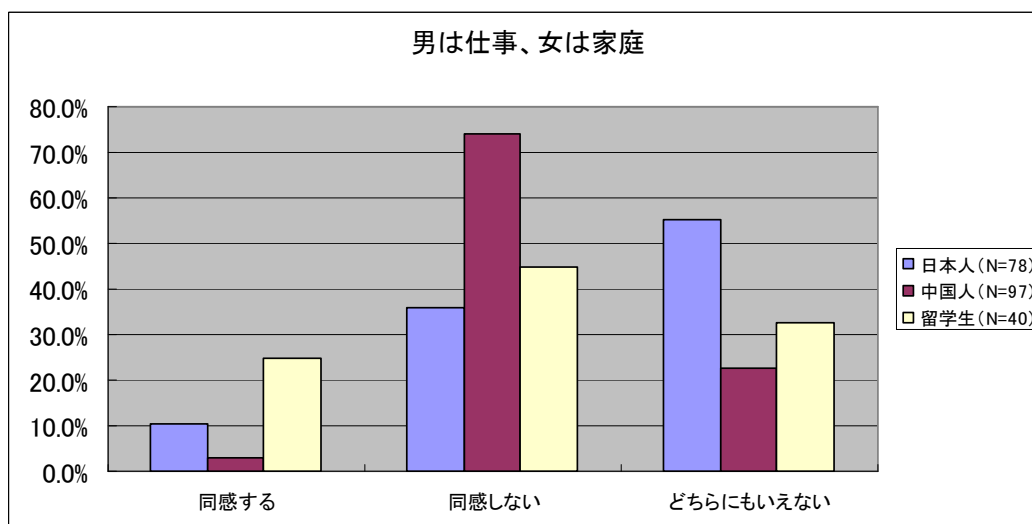


図8 「男は仕事、女は家庭」に対する考え方

2) 働く場合の育児分担に対する考え方

働く場合の育児分担は図9のように、日本人では主に女性が行うという考え方を持つ人が多かった。中国人では夫婦平等に行うという考え方を持つ人が多かった。一番目立つのは中国人では「肉親の援助」を選んだ人が日本人より、はるかに多かったことである。中国では共働きする場合に、自分の親（子どものお爺さん、おばあさん）が子どもの世話をすることが多い。特に育児休暇が終わったら、親のところに預かってもらい、幼稚園に行く年齢になったら、子どもを引き継いで面倒を見るようになっている。若者の子育ては親に頼っている傾向が見られる。

また、中国の男女定年になる年齢は日本より早く、定年になったら、ほとんどやることのないので、孫の世話をすることを楽しんでいることも背景にあると思われる。

3) 日常的な事柄の役割分担についての考え方

「両方同じ程度の役割」を選んだ日本人と中国人の割合がほぼ同じだったが、留学生の場合は有

意に高い値を示した(図10)。留学することに伴い、キャリアアップして、独立性が強くなるにつれて、男性に負けない気持ちが増え強まっていると考えられる。家庭においても同じ地位にあるべきと考える人が多いのではないかとと思われる。

回答者別にみると、中国人では「同じ程度の役割」と「どちらかといえば女性の役割」と「主に女性の役割」の意見は同じ割合であるが、日本人が特に「どちらかといえば女性の役割」と考える人が多かった。留学生では「同じ程度の役割」を考える人が多かった。

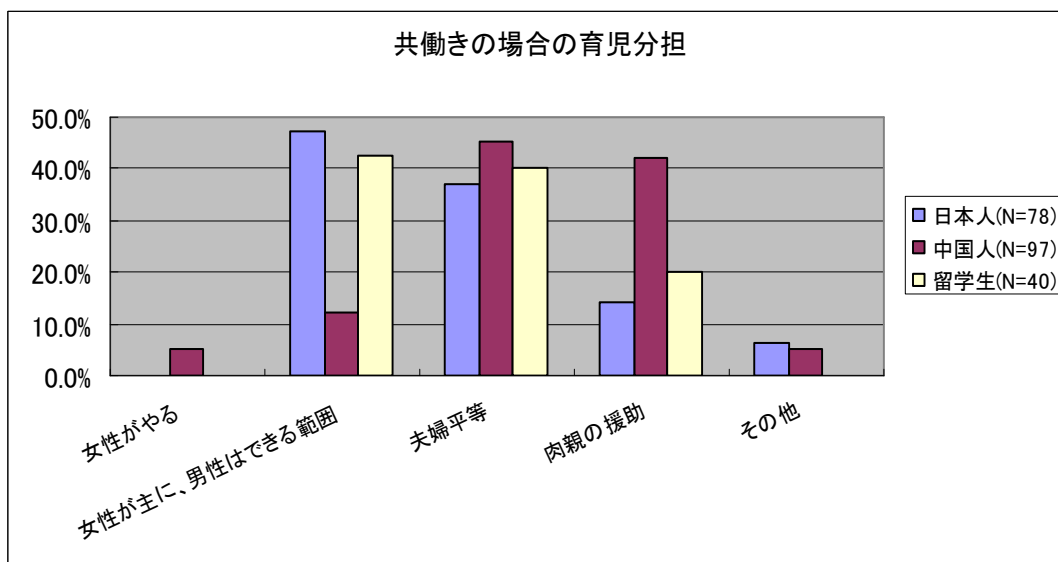


図9 共働きの場合の育児分担

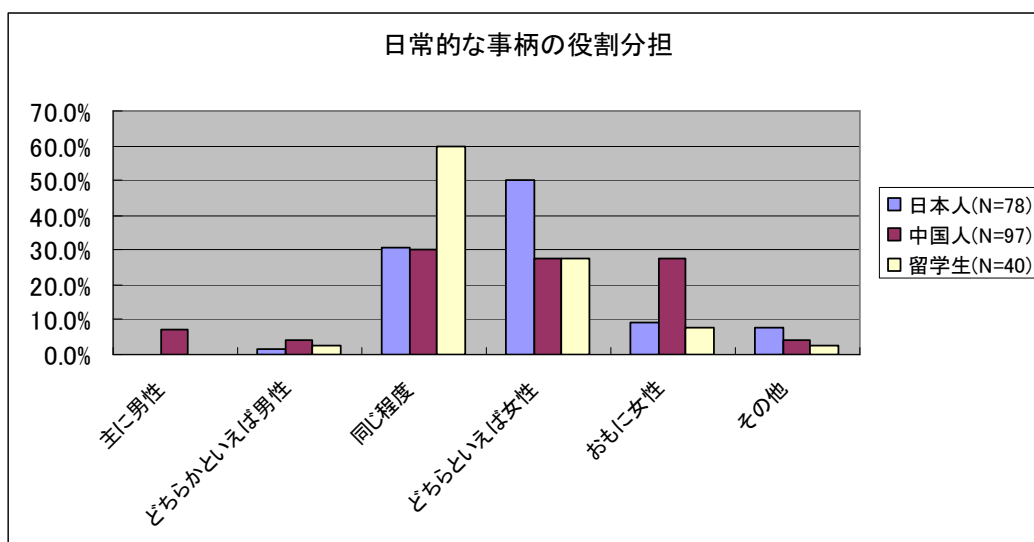


図10 日常事柄の役割分担について

4) 結婚したら、夫に分担してもらいたいことについて

図11のように、「日々の家計の管理をする」を選んだ中国人の割合が日本人と留学生よりも圧倒

的に高かった。中国では女性が家計を管理することが多い。夫の協力を得て、管理してほしいという意識が強まっているのではないと思われる。一方、日本人は「子どものしつけ」「子どもの世話」「食事の支度片付け」が高く、具体的な家事の分担を望んでいると思われる。

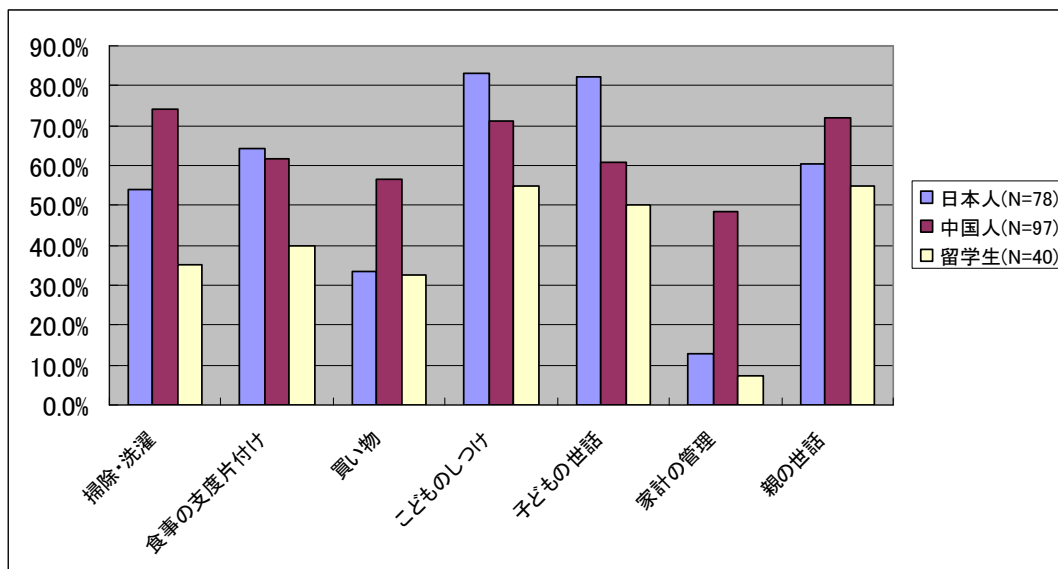


図 11 夫が分担してもらいたいことについて（複数回答）

4. 留学生の意識変化について

今回の調査は日本女子大学生と中国女子大学生の意識に関する調査ということで、中国女子留学生は独立な集団として取り上げた。留学生たちは日本に来てから、結婚観、職業観、性役割観について、どのような変化が見られるのかについてを記述式で回答してもらった。なお、留学生の日本在住は平均3年であった。

1) 日本の専業主婦について

- ① 女性として家庭を守るだけではなく、人間としての独立性や社会との触れ合いが大事である。女性も仕事をしたほうがいい。
- ② 専業主婦の生活がつまらなく感じる。
- ③ 専業主婦が大変そうである、やはり日本は伝統的な観念がまだ存在している。
- ④ 社会に触れることができない、人と人のコミュニケーションが少なくなる。
- ⑤ 子どもが多い場合は専業主婦のほうが、子育てに対して、いいことかもしれない。
- ⑥ 専業主婦は一見楽に見えるが、実際結構忙しい、特に子どもがいる場合はなおさらである。

2) 日本の女性は出産してから、仕事を辞めることが少なくないことについて

- ① 日本の子育ての環境が整えられていないような気がしている。例えば、幼稚園や保育園の終わりが早い、肉親からの援助が少ないことなどが挙げられる。
- ② 人は社会に進出しないと視野が狭くなる。
- ③ 日本の女性がかわいそう、人間としてもっと自分の価値を発揮してほしい。
- ④ 子育てに専念してよいことだと思う。子どもを保育園に預けて仕事をする人もいる。子どもが病気の場合に、すぐ呼び出されるので、仕事に支障が出るし、周りの人に迷惑をかける。

3) 中国と日本の家庭においては、家事や育児の役割分担が違うと思うところ

- ① 中国では、男性も家事や育児に参加することが多い。日本の男性が忙しいように見える、家事を全然しないような気がする。
- ② 日本の男性が家事育児に興味がない、やりたくない、家事育児に対する責任を持たない。
- ③ 日本の家庭では、お父さんとこどもの関係、あるいは家庭との関係はきわめて薄いものだと思う。
- ④ 中国では共働きの場合が多く、子どもの世話は肉親の援助で行うケースが多い。

以上、留学生は日本に留学して3年あまりと短いことから、日本の家庭や女性・男性役割、子育て環境について新鮮な目で観察していると思われる。外国人から見た日本の女性を取り巻く環境は必ずしも恵まれたものとはいえないことが把握された。国際化が日本においても叫ばれる昨今、一つひとつの家庭という足場を見つめて、環境改善に取り組む努力が今後さらに必要となるであろう。

IV まとめ

日本人、中国人、留学生の女子学生を対象に結婚観、職業観、性役割観について質問紙調査を行った結果、それぞれに特有の価値観が見出された。日本人は、結婚に対して「精神的な安らぎ」や「子育ての生きがい」をもとめている一方で、結婚による「家事育児の負担」に不利を感じ、生活の維持や充実のために結婚後の就労を望んでいる。中国人は、結婚に「高めあう仲間を得る」ことを期待し、女性は結婚と職業を両立させ、育児は両親などの支援を受け、夫婦平等に育児分担すると回答した。留学生は、結婚に対して「精神的な安らぎ」を求めたかわら、結婚後働くことは「自分の能力の発揮」であると考え、自由記述では、日本の女性が家庭に縛られる現状を気の毒なものとして捉えていた。それぞれの国の文化や社会環境の違いが感じられるが、日本においても女性が働らきやすく子育てしやすい環境を整えるにあたって、中国の子育て環境や女性のキャリア意識は大いに参考になると考える。

謝辞

最後に質問紙調査にご協力していただいた日本のA大学女子大学生と中国のB大学女子大学生および日本のC大学中国人女子留学生の皆様にご心より感謝しお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 中井美樹. 2000. 若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観, 『立命館産業社会論集』, 36 (3), 117~118.
- 2) 中国婦女社会地位調査課題組. 1995. 第一章中国女性の社会的地位に関する理論的認識 (山下

威士、山下泰子監修), 中国の女性—社会的地位の調査報告, 4~8, 66, (尚成社).

- 3) http://www.parappa.net/~haruru/sotsuron_c2.htm アクセス日 2008/07/31
- 4) NHK 放送文化研究所「編」. 1998. 『現代日本人の意識構造』(第四版), 44~46, 35~36, (日本放送出版協会).
- 5) 中国婦女社会地位調査課題組, 第四章職業の選択と評価 (山下威士、山下泰子監修). 1995. 中国の女性—社会的地位の調査報告, 66, (尚成社).
- 6) NHK 放送文化研究所「編」. 1998. 『現代日本人の意識構造』(第四版), 35~36, (日本放送出版協会).